

学校保健 理論研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>「思春期における性同一性障害」 ～性同一性障害についての理解と学校での対応について～</p>	
<p>日時</p>	<p>平成28年 10月 14日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>恵庭市立若草小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>池田 官司 氏 (北海道文教大学 作業療法学科 教授)</p>	
<p>参加者</p>	<p>99名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>「性同一性障害」とは、身体的性別とジェンダーアイデンティティが一致していない状態をいう。性別違和感・反対の性別への同一感、その人によってさまざまであるが、性別にはさまざまな側面があり、このように分けて考えると整理される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体(生物学的)の性別 ・心・自覚する性別 ・他の人からどうみなされたいか、自分がどう振る舞いたい(社会的)な性別
		<p>○MTF(Male to female) 身体的性別が男性、性自認が女性 読み方は、エムトウーエフまたはエムトイーエフ</p> <p>○OFTM(Female to Male) 身体的性別が女性、性自認が男性 読み方は、エムトウーエフまたはエムトイーエフ</p>
		<p><u>性別違和を訴える児童・生徒への対応のコツ</u></p> <p>○まず受け入れる 当事者は自分のアイデンティティに疑問を持っているので、晴らすには他者から承認を受けることが必要。</p> <p>○現実的に対応する 持って生まれた身体的条件は変えようがないので、与えられた条件の中で、現実的な落としどころを見出して行くことが肝要である。</p> <p>○未来のことを一緒に考える 「自分らしく、やりたいようにやってよい、人に迷惑をかけなければ。」というメッセージを送り続ける。</p>
		<p><u>性別違和感を持つ子どもから対応を求められたら？</u></p> <p>○必要な対応は、子どもによって異なる</p> <p>○カミングアウトしたい子もいれば、したくない子もいる</p> <p>○「女(男)らしくしろと言わないでほしい」「いじめを受けないよう配慮してほしい」「制服やトイレに配慮してほしい」「先生達がわかってくれればそれでいい」など…。基本は、<u>本人が困っていること、つらいことをよく把握し、現実的に対応することが大切である。</u></p>